

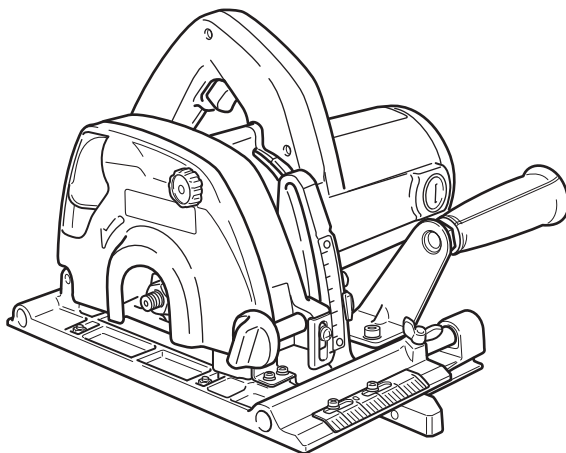
# HiKOKI

## 小穴カッタ

21 mm PG 21BA

### 取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。  
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

# 目 次

	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
ブレーキ付小穴カッタの使用上のご注意	5
各部の名称	7
仕様	8
標準付属品	8
別売部品	9
用途	10
作業前の準備	10
ご使用前に	12
作業前の調整	13
溝の削り方	15
カッタの取付け・取りはずし	16
保守・点検	19
ご修理のときは	裏表紙

---

---

## **⚠警告**、**⚠注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠警告**」、「**⚠注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

**⚠警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

**⚠注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

**注** : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「**⚠注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているため、必ず守ってください。

# 電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## 警告

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
  - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
  - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
  - 作業場は十分に明るくしてください。
  - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **感電に注意してください。**
  - 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。  
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）
- ④ **子供を近づけないでください。**
  - 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
  - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
  - 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
  - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**
  - 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
  - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
  - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
  - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。

## 警告

- 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
  - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。
- ⑨ 保護メガネを使用してください。**
- 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ 防音保護具を着用してください。**
- 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ コードを乱暴に扱わないでください。**
- コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。  
コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。**
- 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。  
手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。**
- 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。**
- 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
  - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
  - コードを点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
  - 延長コードを使用する場合は、事前に点検し、損傷している場合には交換してください。
  - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いてください。**
- 使用しない、または、修理・調整・点検する場合。
  - 刃物、トイシ、ビットなどの付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
  - その他、危険が予想される場合。
- ⑯ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**
- 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしであることを確認してください。

## 警告

### ⑰ 不意な始動は避けてください。

- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
- さし込みプラグを電源にさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。

### ⑱ 屋外使用に合った延長コードを使用してください。

- 屋外で使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。

### ⑲ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

### ⑳ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

### ㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

### ㉒ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。

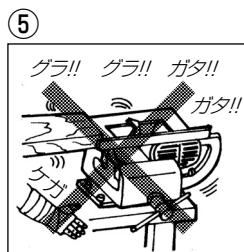
- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
- 修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。

# ブレーキ付小穴カッタの使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、ブレーキ付小穴カッタとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

## 警告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。  
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② 必ずアース（接地）してください。  
故障や漏電などのとき、感電の恐れがあります。  
（詳細は、10 ページの「1. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認」の項をご参照ください。）
- ③ 使用中は、サイドハンドルを付け、両手で本体を確実に保持してください。  
確実に保持していないと、けがの原因になります。
- ④ 切削する材料は、安定性のよい台に置いて作業してください。  
台が不安定ですと、けがの原因になります。
- ⑤ 本体を万力などで保持して、カッタを上向き（定置形）にした使い方はしないでください。  
カッタに手や身体が触れ、思わぬけがの原因になります。
- ⑥ 使用中は、カッタや回転部、切粉排出口に手や顔などを近づけないでください。  
けがの原因になります。
- ⑦ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音や異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。  
そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ⑧ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。  
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
- ⑨ 延長コードを使用するときは、アース線を備えた3心キャブタイヤケーブルを使用してください。  
アース線のない2心コードですと、感電の原因になります。



## ⚠注意

- ① カッタや付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。  
確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② カッタの取扱いには、手袋、布などで手を保護し、十分注意してください。  
不用意に扱うと、切り傷の原因になります。
- ③ ブレーキが働くときの反発力に注意してください。  
機体を落したりし、けがの原因になります。
- ④ 材料に釘などの異物がないことを確認してください。  
刃こぼれだけでなく、反発により思わぬけがの原因になります。
- ⑤ 回転するカッタで、コードを切断しないよう注意してください。  
感電の恐れがあります。
- ⑥ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。  
けがの原因になります。
- ⑦ 指定以外の刃物（丸のこ刃、チップソーなど）での切断作業はしないでください。  
丸のことしての保護装置がなく、けがの原因になります。



# 各部の名称

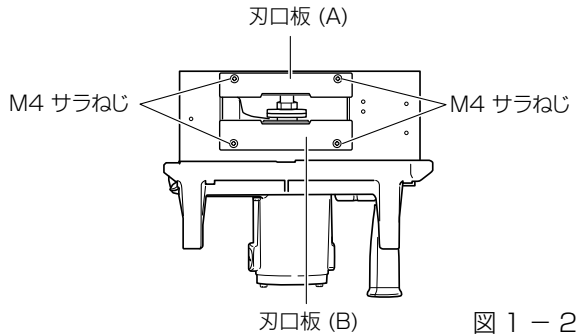


図 1 - 2

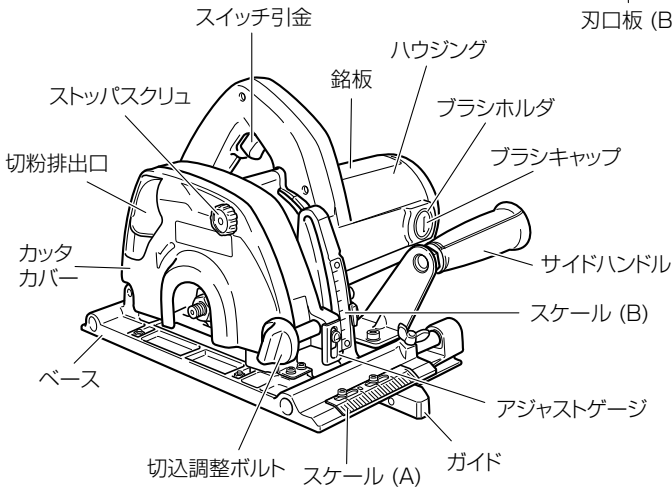
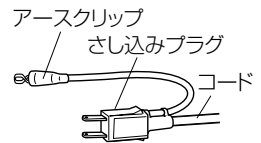


図 1 - 1





# 仕 様

使 用 電 源	単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V
能 力	切削幅 3 mm ~ 21 mm 切込み深さ 11 mm (標準) 24 mm (最大)
カ ッ タ 寸 法	外径 112 mm ~ 125 mm × 刃幅 3 mm ~ 21 mm × 穴径 15 mm
全 負 荷 電 流	11 A
消 費 電 力	1,050 W
無 負 荷 回 転 数	8,000 min <sup>-1</sup> { 回 / 分 }
モ ー タ ー	単相直巻整流子モーター
質 量	4.0 kg (コード、ガイドを除く)
コ ー ド	アースクリップ付 3 心キャブタイヤケーブル 5 m

## 標準付属品

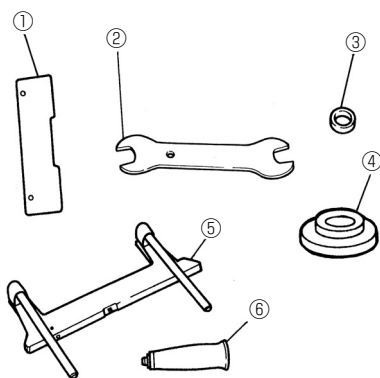


図 2

- ① 刃口板 (B)..... 1 枚
- ② スパナ ..... 2 個
- ③ デスタンスピース ..... 1 個  
(ボス幅 6 mm 以下のカッタの  
取付けに使用します。)
- ④ ワッシャ (C)..... 1 個  
(3 ~ 21 mm 自在溝切カッタの  
取付けに使用します。)
- ⑤ ガイド ..... 1 個
- ⑥ サイドハンドル ..... 1 個

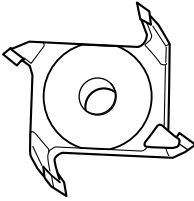
# 別売部品

……………（別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。）

## 1. け引きカッタ

（単位 mm）

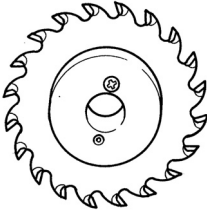
カッタの種類	外径	刃 幅										
け引きカッタ	120	3	4.5	5.5	6	7.5	9	10.5	12	15	18	21



**注** •刃幅 15mm 以上のけ引きカッタをご使用のときは、1 回の切込み深さは 11 mm までとしてください。  
また、送り速さは 3 cm 毎秒以下とし、モーターに無理をかけないように加減してください。

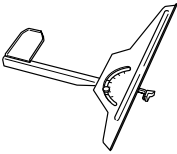
## 2. 自在溝切カッタ……切削幅がダイヤル目盛りで調整できます。

（単位 mm）



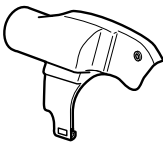
外 径	刃数	切削幅調整範囲
120	24 枚刃	3 ~ 15
	30 枚刃	3 ~ 21

## 3. 造作ガイド (B)



幅広材に横溝を入れるときに、ご使用ください。

## 4. 集じんカバー



集じんカバーは、集じん機で集じんする場合に使用します。

取付け方は、部品に付いている説明書をお読みください。

# 用 途

○ カッタによる木材の溝切作業

## ⚠注意

- 指定以外の刃物（丸のこ刃、チップソーなど）での切断作業はしないでください。

## 作業前の準備

作業前に次の準備をすませてください。

### 1. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認……………

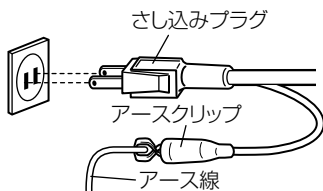
ご使用にさきだち、本機が接続される電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断装置（以下、漏電しゃ断器と言います）が設置されていることを確認してください。

また、本機は必ずアース（接地）をしてください。定格感度電流 15 mA 以下、動作時間 0.1 秒以下の電流動作型の漏電しゃ断器が設置されている電源でお使いになる場合でも、より安全のためにアースされるようおすすめします。

アースをするときは、次ページのアースクリップをお使いになると便利です。

アースクリップ、アース線は、念のために異常のないことを確認してからご使用ください。テスターや絶縁抵抗計などをお持ちでしたら、アースクリップと本機金属外枠との間の導通を確認してください。

地中に接地極（アース板、アース棒）を埋め、アース線を接続するなどの接地工事は、電気工事士の資格が必要ですので、お近くの電気工事店にご相談ください。なお、アース線をガス管に取付けると爆発の恐れがありますので、絶対にしないでください。



## 2. 延長コード……………



- 延長コードは、損傷のないものを使用してください。

電気が流れるのに十分な太さの、できるだけ短いコードをご使用ください。

次の表は、使用できるコードの太さと、最大の長さです。

これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

コードの太さ (導体公称断面積)	最大の長さ
1.25 mm <sup>2</sup>	10 m
2 mm <sup>2</sup>	15 m
3.5 mm <sup>2</sup>	30 m

必ずアース(接地)できる接地用の  
1心をもつ3心キャプタイヤケーブル  
をお使いください。

## 3. 作業台(木製)を用意する……………

作業に合ったしっかりした作業台をご用意ください。作業台がぐらぐらして  
いますと、けがの原因になります。作業台は安定した状態に設置してください。

### ○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。

ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。

状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

# ご使用前に

## 警告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～4項については、さし込みプラグを電源にさし込む前に確認してください。

### 1. 使用電源を確かめる……………

必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に速くなり、機体が破壊する恐れがあります。また、直流電源で使用しないでください。製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

### 2. スイッチが切れていることを確かめる……………

スイッチが入っているのを知らずにさし込みプラグを電源にさし込むと、不意に起動し、思わぬ事故の原因になります。スイッチはスイッチ引金(図1参照)を引くと入り、はなすと切れます。スイッチの引金を引き、はなしたときスイッチ引金に戻ることを必ず確認してください。

### 3. カッタの取付け……………

カッタの取付けは、16ページの「カッタの取付け・取りはずし」の項をご参照ください。カッタの締付けが不完全ですと、けがの原因になります。十分に締付けられているかどうか、点検してください。

### 4. 切込調整ボルトの締付けを確かめる……………

切込調整ボルト(図1-1参照)の締付けがゆるいと使用中に切込み深さが変わりますので締付けを確かめてください。

### 5. 電源コンセントの点検……………

さし込みプラグをさし込んだとき、ガタガタだったり、すぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

### 6. ブレーキがかかることを確かめる……………

本機はスイッチを切ると同時にブレーキがかかる構造になっています。ご使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。万一正常に作動しない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

### 7. サイドハンドルの取付け……………

ご使用前にサイドハンドルを本体に取付けてください。(図1-1参照)

# 作業前の調整

## 警告

●万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

### 1. 刃口板の調整……………

本機のベースには、溝部のふち欠けを防ぎ、ベース刃口幅が調整できる刃口板 (A) と (B) が付いています。工場出荷の際は、ベース刃口幅を最大にして取付けてありますので、ご使用の際は次によりカッタの刃幅に合わせて調整してください。

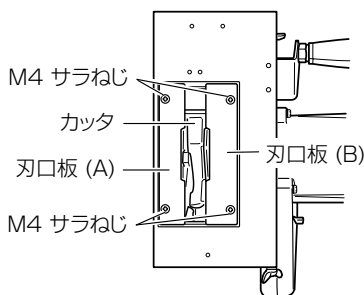


図 3

- (1) 本体をうら返し、刃口板 (A) および (B) を固定している M4 サラねじ 4 本をゆるめます。
- (2) 刃口板 (A) を、カッタの刃先側面に当たらない程度に移動させ、サラねじ 2 本で締付けます。  
この際、カッタを手で回し、刃口板 (A) の前後ともカッタに当たらないことを確認してください。
- (3) 刃口板 (B) も刃口板 (A) と同じ要領で調整し、サラねじ 2 本で締付けます。
- (4) 最後にもう一度カッタを手で回して、カッタが刃口板 (A)、(B) に当たらないことを確認してください。

**注** ●カッタの刃幅が小さく、刃口板 (A) を移動してもカッタ側面とのスキマが大きい場合には、付属のもう 1 枚の刃口板 (B) と交換してください。

### 2. 切込み深さの調整……………

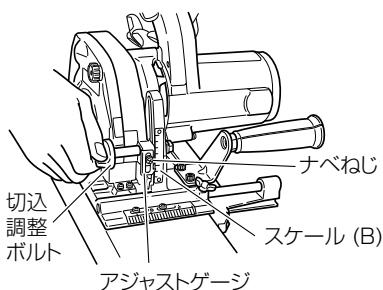


図 4

- (1) アジャストゲージとスケール (B) の目盛り 0 の位置を、次により実際の切込み 0 の位置に合わせます。
  - 切込調整ボルトをゆるめ、本体を上下に動かし、カッタの刃先とベース底面が一致する位置で切込調整ボルトを締付け、本体を固定します。
  - アジャストゲージを止めているナベねじをゆるめ、アジャストゲージをスケール (B) の目盛り 0 に合わせナベねじを締めます。

- (2) 次に、切込調整ボルトをゆるめ、アジャストゲージをスケール (B) の切削する溝深さの目盛りに合わせます。スケール (B) の 1 目盛りで、切込み深さは 3 mm 変化します。
- (3) 切込調整ボルトを十分に締付けます。

**注** •左記の (1) の調整は、初めて本機をご使用になるときに行えば、2 回目以降は不要です。ただし、外径の異なるカッタをご使用のときや、カッタが摩耗したときには、再調整してください。

### 3. 切込み位置の調整……………

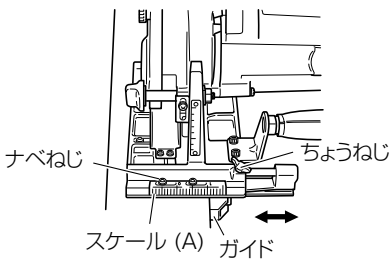


図 5

- (1) スケール (A) の目盛り 0 がカッタの側面と一致するよう、スケール (A) を止めているナベねじ 2 本をゆるめて調整してください。
- (2) ベース前後のちょうねじをゆるめて、ガイドを動かし所定の位置に固定します。スケール (A) の 1 目盛りは 3 mm です。

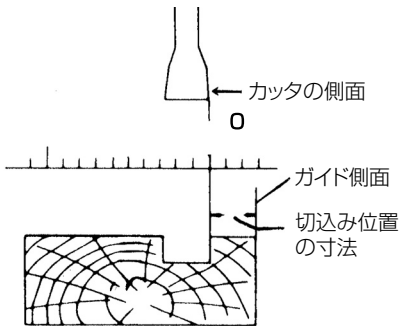


図 6

# 溝の削り方

## ⚠警告

- カッタを上向き、横向きにした使い方はしないでください。
- 回転中のカッタには手や身体を近づけないでください。

## ⚠注意

- 使用中にカッタが止まったり、異音を発したときなどには、直ちにスイッチを切ってください。
- 回転中のカッタにコードを接近させないよう十分ご注意ください。
- 運搬は必ずカッタが止まってからにしてください。
- 運搬のときには、スイッチ引金に指を掛けないでください。不意にスイッチが入り、思わぬけがの原因になります。
- 作業中断時や作業後は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

## 1. スイッチの操作

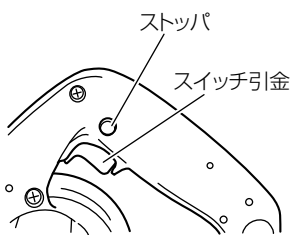


図 7

スイッチ引金を引くとスイッチが入り、指をはなすと切れます。引金を引いたままでストップを押すと、指をはなしてもスイッチは入ったままになります。この状態から再び引金を引くとストップがはずれ、スイッチは切れます。

## 2. 普通に削るときは……

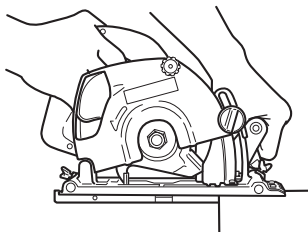


図 8

- (1) 木材の上にベース先端をのせ、カッタが木材に触れない状態でスイッチを入れます。(図8)



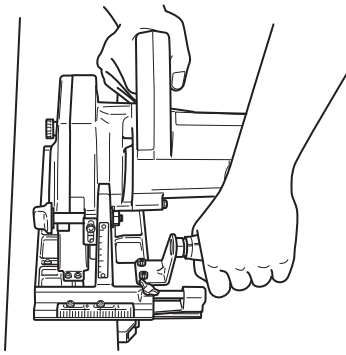


図 9

- (2) 回転が上昇してから、ガイドが木材の側面に当たるように押さえながら本体が木材の上を平らに動くよう静かに前に進めて削ります。削り終るまでそのままの状態を保つようにしてください。

特に木材の端に小穴をつく場合は本体が傾かないようにサイドハンドルをしっかり握ってささえてください。(図9)

### 3. 途中から溝を切る場合には……………

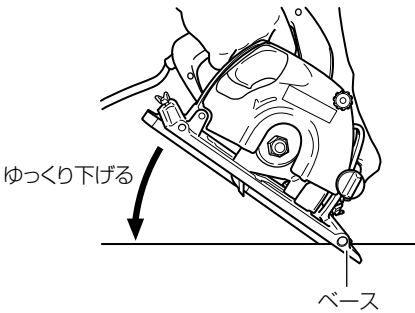


図 10

- (1) ベース先端を木材にのせ、後端を持ち上げてカッタを削り始める位置に合わせます。
- (2) ガイドを木材の側面に当てておき、カッタが木材に触れない状態でスイッチを入れます。
- (3) 回転が上昇してから、ベース全体が木材にのるまで本体をゆっくり下げて、静かに前へ進めます。

## カッタの取付け・取りはずし

### ⚠ 警告

- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

カッタの取付けは、次により行います。取りはずす場合は、取付けと逆の手順で行ってください。

# 1. け引きカッタの取付け…………

## ⚠注意

●市販のカッタを使用するときは、カッタがベース刃口に当たらないことを必ず確認してください。

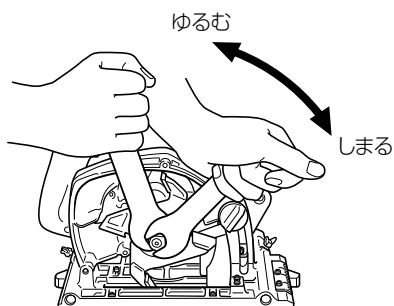


図 11

- (1) 切込調整ボルトをゆるめ、ベースを一番下(切込み量0)に下げた後、ストップスクリューをゆるめカッタカバーをはずします。
- (2) 付属のスパナ2本を使いナットをはずし、続いてワッシャ(A)もはずします。
- (3) スピンドルやワッシャなどについての切りくずをよくふき取ってください。

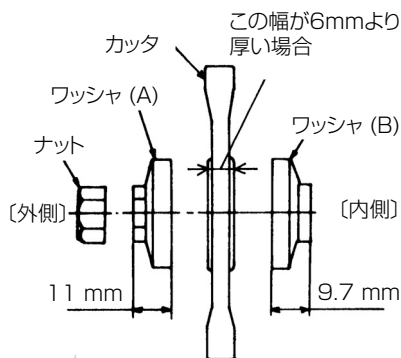


図 12

- (4) (イ) ボス幅が6mmより厚いカッタの場合カッタの向きに注意し、図12のように、カッタ→ワッシャ(A)→ナットの順で、スピンドルに取付けます。

- (ロ) ボス幅が6mm以下のカッタの場合刃幅が3mm、4.5mm、5.5mm、6mmのけ引きカッタ、又は市販のカッタでボス幅が6mm以下の場合には、図13のように、ワッシャ(B)の内側に付属のデスタンスピースを入れてください。

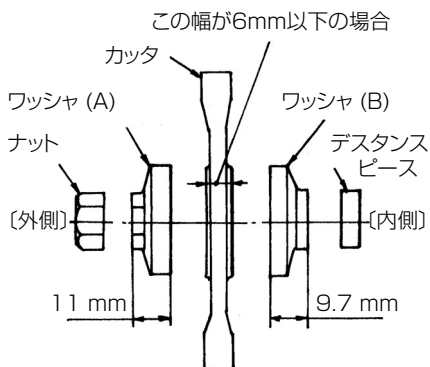


図 13

- (5) 付属のスパナ2本で、ナットを十分に締付けます。

## 2. 自在溝切カッタの取付け……（け引きカッタの取付けと共通の部分は省略してあります。）

### ⚠注意

- 市販の自在溝切カッタを使用するときは、カッタがベース刃口に当たらないことを必ず確認してください。

自在溝切カッタとは、ダイヤル目盛りの調整で切削幅を変えられるカッタのことです。調整範囲は3～15 mmのものと、3～21 mmのものがあり、取付け方が異なります。

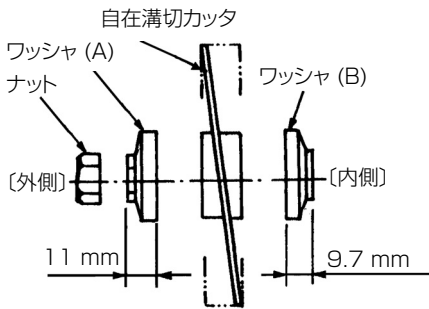


図 14

#### (1) 3～15 mm 自在溝切カッタの場合

図 14 のように、ワッシャ (B) →自在溝切カッタ→ワッシャ (A) →ナットの順に取付け、ナットを十分に締付けます。

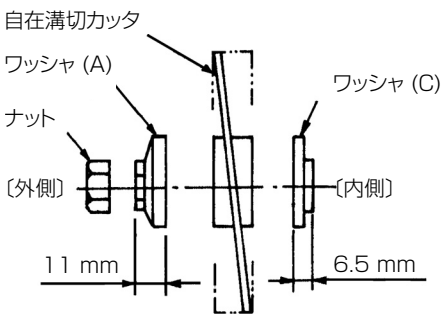


図 15

#### (2) 3～21 mm 自在溝切カッタの場合

図 15 のように、ワッシャ (C) →自在溝切カッタ→ワッシャ (A) →ナットの順に取付け、ナットを十分に締付けます。

- 注** •自在溝切カッタをご使用の場合、1回の切込み深さは11 mmまでとし、11 mm以上のときは数回に分けて切削してください。また、送り速度は、切削幅15 mm以下の場合は5 cm 毎秒以下、切削幅15 mm以上では3 cm 毎秒とし、モーターに無理がかからないよう、カッタの切れ味や木材の硬さにより加減してください。

# 保守・点検

## ⚠ 警告

- 点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

### 1. カッタの点検……………

## ⚠ 注意

- 切れ味の低下したカッタをそのまま使用しないでください。切削時の反力が大きくなり、思わぬけがの原因になります。

カッタの切れ味が悪くなったものをそのままご使用になっておきますとモーターに無理をかけることになり、また能率も落ちますから早めに研磨をするか、新品と交換してください。

### 2. 機体の点検……………

各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

### 3. カーボンブラシの点検……………

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因となりますので、長さが摩耗限度(6 mm)ぐらいになりましたら新品と交換してください。

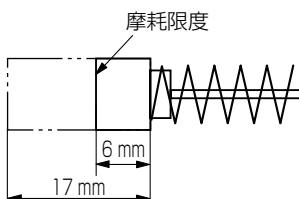


図 16

また、カーボンブラシはごみなどを取除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしておいてください。

- 注** •新品と交換の際は、必ず弊社指定のカーボンブラシを使用してください。指定以外のカーボンブラシを使用すると、ブレーキがかからないことがあります。

#### 交換方法

カーボンブラシは、マイナスドライバーなどでブラシキャップ(図 1 - 1 参照)をはずしますと取出せます。

#### 4. モーターの取扱いについて……………

モーターに、洗油や水をつけたりしないよう十分注意してください。

- 注** •モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。  
使用後は、モーターを無負荷運転させて風を送りますと、ごみやほこりの排出に効果があります。

#### 5. 製品や付属品の保管……………

使用しない製品や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- |   |  |   |                     |
|---|--|---|---------------------|
| { | <ul style="list-style-type: none"><li>○ お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所</li><li>○ 軒先など雨がかったり、湿気のある場所</li><li>○ 温度が急変する場所</li><li>○ 直射日光の当たる場所</li><li>○ 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所</li></ul> | } | このような場所<br>には保管しない。 |
|---|--|---|---------------------|

---

メ 毛

---

---

メ 毛

---

# ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。  
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へ  
お問い合わせください。

## お客様メモ


お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理  
を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

## 全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00 ~ 17:00

●フリーダイヤル

 0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。  
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。  
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 896-1740	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、  
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点  
をご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに  
アクセス

バーコードリーダー機能付きの  
携帯端末より読み取ることで、  
最新の全国営業拠点をご確認  
いただけます。



# 工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)  
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/>